

## 16

## 一般社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 24 年 10 月 22 日(月)

□相談年度:平成 24 年度

## ■甲府刑務所から出所後、その足で新宿に■

## ～4回刑務所に服役した男が頼るものとは～

窃盗などを繰り返し、4度刑務所に入った男が再起を望み、出所したその日に新宿歌舞伎町を訪れた。涙ながらに自身の過去を語り、現実社会の厳しさを打ち明け、苦しかった思いをぶちまける。そこには、不器用で真面目な男の姿があった。

■仮名：原口さん

■年齢：35歳

■性別：男性

■問題：刑務所出所者

## 【4度目の服役は、置き引きによる窃盗】

原口さん(仮名)は、予約もなく、突然駆け込み寺に来た。身なりはしっかりしたもので、一見普通のサラリーマンに見えるスーツ姿で物静かな印象だった。駆け込み寺のパフレットを握りしめ、相談があると行ってボソボソと話し出した。「今日、甲府刑務所から出所してきました」「所持金が5千円しかなくどうしていいかわからず、刑務所で駆け込み寺というところがあると思い出して、交番に聞いてこちらに伺った次第です」。

「罪状は？ 刑期は？ 初犯か？」、「窃盗です、10ヶ月です、初犯です」と言ったが、その目は泳いでいた。人間が嘘をつく時の典型だ。「本当に初犯か？」・・・沈黙があり、口籠り・・・「4度目」と小さな声で言った。

## 【刑務所生活は辛かった】

苦しかったのは集団生活による“イジメ”が原因。刑務所では受刑者に刑務作業として労働を強制している。労働時間は、1日8時間、工場と呼ばれる場所で作業をした。彼は、中でも軽作業に当たる、「図書・計算工場」というところでの作業だった。その工場に配属されると人数が少ない為、独居房という部屋になるケースが多いと聞いたのだが、ここはあきらかに過剰収容らしく、部屋は雑居房となった。昼8畳ほどの部屋に8～9人が一緒に生活をする。そこにはプライバシーなどは全く無く、日常生活において普段は気にすることのない行動にも神経をつかった。例えば食事の配膳担当になったときは非常に気をつかう。おかずなどを皆へ均等に配膳しなければ、すぐに受刑者どうしの喧嘩がおこるからだ。このようにいい大人がおかずや味噌汁の具を取りあってもめることなど塀の外で普通に生活している人からは考えられないだろうが、ここでは日常的に起こることだった。それが本当に辛かったと溜息をつく。

彼は中学卒業後、土木関係の仕事を転々としてきた。鳶以外は大抵の事はできると話す。「また、そういう仕事がやりたいのか？」と聞くと、「はい」という。その言葉は細い身体に似合わず力強かった。

## 【支援者でもある建設会社に依頼】

「働きたい」と駆け込み寺に相談にくる人もたくさんいる。あくまで駆け込み寺のスタンスは溺れている人間を砂浜まで引き上げてあげること。そこからは、本人の力で歩いていってもらう気持ちにさせ、実際歩いてもらわなければ困る。そういったスタンスである。だから、そういった相談は基本的には、行政機関を紹介することになっている。但し、刑務所出所者に関しては、なかなかそうも行かないので、十分に話を聞き、「心通ずる」ようなものを感じる人間ならば、支援者企業に連絡を取って、受け入れ可能かを確認し、取りあえず面接という形を取ることもある。今回のケースはまさにそういったケースであった。東京都近郊にある建設会社の社長さんに依頼し、現場仕事なら何でもするという事で話をつけ、その日の夕方に面接をしてもらえることになった。有難い話である。原口さん本人もあまりのスピードにただただ「はい。はい」と頷くばかりで、状況が読み込めていないみたいだ。その原口さんに、丁寧に話を進め、東京都近郊の何処何処に何時頃と指示をし、そこに、その建設会社の社員の方に迎えに来てもらった。現場仕事は普通でもキツイ。刑務所を今日出て来たばかりの人間には、尚更だ。「相当大変な事だぞ、大丈夫か？」再度本人に確認すると、「何とかやり直したい」「刑務所には戻らない」と瞬きをすることなく、訴えるように答えた。



10月6日ロフト・プラスワンで行われた時のイベント風景【辻本好二さん(左) 玄代表(中央) 高野こうじさん(右)】

## 【ここが POINT】 .....

「周りを変えるのは難しい、だったら自分が変わればよい」ただ、当事者にしてみたら、そう生易しいことではない。まず不安の一つに最低限必要な「食住」の確保、生活資金も乏しい出所者が、出所したその日から生活する住居を確保し、職を得て社会生活のスタートを切ることは、大変なことである。だからこそ、行政の「セーフティー・ネット」が重要なのはもちろんだが、ここが目指す「ヒューマン・ネットワークの拡がり」が必要なのである。今回のケースも、そういう心と心が通った「人」と「人」との繋がりがあつての事例である。